

THE A MUSEUM

Vol.3-1 第7号 2008.7.17.

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

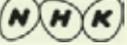
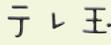


企画展

埼玉サッカー100年

平成20年7月19日(土)～8月31日(日)

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館
共催 埼玉サッカー100周年記念事業実行委員会（さいたま市・埼玉大学・
（財）埼玉県サッカー協会・さいたま市サッカー協会・さいたま市
まちづくり推進協議会・埼玉県立歴史と民俗の博物館）

協力  浦和レッドダイヤモンズ  **埼玉新聞社**
 さいたま放送局  テレ玉  NACK5

今からちょうど100年前、明治41年（1908）7月、
細木志朗ほそきしろうが埼玉師範学校に着任しました。細木は、東京高等師範で当時蹴球しゅうきゅうとよんだサッカーを学び、埼玉師範に蹴球部を創設し、指導しました。ここに埼玉サッカー100年の歴史が始まったのです。

戦後、「埼玉を制するものは、全国を制する」といわれた高校サッカーはもちろん、社会人や少年サッカーも盛んで、高校女子も全国優勝をするようになってい
ます。

また、本県で2002W杯が開かれ、さらにはJリーグ2
チームがさいたま市をホームとしており、埼玉はサッカーで熱く燃えています。

この企画展では、埼玉サッカーの黎明から、100年間のサッカー史を飾る、エポックとなる試合や年代を中心に展示紹介します。

関連事業

記念講演会

7月27日(日) 午後1時30分から

「Wonderful SAITAMA

ーサッカーで幸せな埼玉県へー」

講 師：横山謙三氏（財）埼玉県サッカー
協会副会長兼専務理事

申込方法：6月27日(金) から電話受付

サッカークイズラリー

8月24日(日) 開館時間中実施

申込方法：当日受付（要観覧料）

内 容：参加者には抽選でサッカーグッズ
などをプレゼント

展示解説

8月2日・16日・30日 いずれも土曜日、

申込方法：午後2時から（要観覧料）

プロローグ：埼玉サッカーの黎明

明治41年（1908）7月、細木志朗が埼玉師範学校に着任し、蹴球部を創設し、蹴球を指導しました。埼玉師範は昭和7年から全国中等学校蹴球大会の常連校となり、同12年には全国優勝を果たしています。

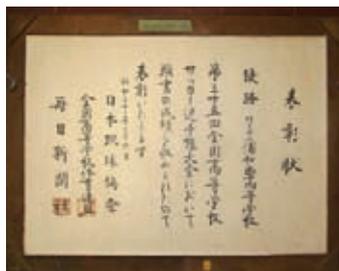


細木志朗と埼玉師範蹴球部

第1章 高校サッカー王国・埼玉

戦後、高校サッカーでは、全国大会で6校が優勝しています。

浦和高校は、戦後の高校サッカー界を牽引し、第4・6回の国体、昭和27年の全国高校選手権で優勝しました。この間、昭和26年1月の浦和西高校戦から、翌年夏に蕪崎高校に敗れるまで、69連勝を飾りました。以後、全国高校選手権連覇や国体で優勝するなど、黄金時代を築きました。



戦後初の浦和高優勝／選手権優勝（浦和西高）

この浦和高校の前に、まず立ち上がったのが浦和西高校です。昭和32年の全国高校選手権県予選で浦和高校に勝利し、全国大会で見事初優勝、第20回岐阜国体でも優勝を飾りました。

浦和市立高校は、3国体で優勝、全国高校選手権において4回優勝、全国高校総体でも優勝しています。同校は、関東高校選手権の第1回から第6回大会まで6連覇をしています。この6連覇の時期に培った力が、全国大会へ飛躍する礎となりました。



高校選手権優勝楯（浦和市高）

浦和南高校は、地元開催の第22回埼玉国体では優勝。そして昭和44年には、全国高校総体、長崎国体、全国高校選手権に優勝し、史上初の三冠王を達成しました。この時の選手たちを題材としたアニメ「赤き血のイレブン」は、全国的に人気を得ました。



赤き血のイレブンレコードジャケットと高校選手権優勝賞状（浦和南高）

児玉高校は、昭和48年度高校総体において初優勝、翌年から連続準優勝と、全国大会でも実績を挙げています。

武南高校は、昭和56年の全国高校選手権で順調に勝ち進み、決勝で強豪・蕪崎高校と対戦し、優勝しました。



埼玉県勢最後の優勝（武南高校）／高校総体優勝旗リボン（児玉高校）



女子高校サッカーでは、全国高校女子選手権大会で本庄第一高校、埼玉高校（現埼玉平成高校）、埼玉栄高校が優勝し、高校女子サッカーの新しい風が吹き始めています。

第2章 埼玉を制するものは、全国を制す

その後、社会人や少年、地域までサッカーの輪が広がっていきました。

昭和38年の山口国体では、一般の部で浦和サッカークラブが、続く高校の部は浦和市立高校、さらに教員の部は埼玉教員クラブが優勝し、国体史上初となるサッカー完全優勝を達成しました。まさに名実ともに「サッカー王国・埼玉」を全国に知らしめる出来事でした。

昭和39年には、東京オリンピックを契機に我が国最初のサッカー専用スタジアム「大宮公園サッカー場」が完成しています。

昭和40年代は、埼玉教員クラブと浦和サッカークラブが、社会人サッカーを牽引しました。全国社会人サッカー選手権では、浦和サッカークラブが2回、埼玉教員クラブ、電電関東が各1回、近年ではホンダルミノッソ狭山が3連覇を含み4回の優勝の栄冠に輝いています。

一方、全国中学校大会では、浦和大原中学校2回、浦和本太中学校2回など、浦和勢を中心に優勝を重ねています。全日本少年サッカー大会では、第1回に与野下落合少年団優勝。その後、FC浦和が4回優勝のほか新座片山少年団や江南南SCが優勝するなど、裾野が広がっています。ユースのクラブチームでは、浦和レッズコース、クマガヤSSCなども全国レベルで活躍しています。



全日本少年サッカー大会優勝の江南南 SC
全国中学校選手権優勝メダル（大原中学校）

第3章 新しい埼玉サッカー文化の創造

平成に入って新たな埼玉のサッカー文化が創造されています。

平成5年に、浦和レッズがJリーグに参戦、様々なカップ戦でも優勝しています。レッズは、チームカラーの赤一色になった熱いサポーターの声援が有名で、日本一のサポーターとして知られています。

Jリーグには、埼玉の電電関東（のちNTT関東）から発展した大宮アルディージャもあります。オレンジをチームカラーとして、初優勝を狙っています。

平成14年は、埼玉県サッカー史にとって輝かしい一頁を刻んだ年でした。埼玉スタジアム2002では、ワールドカップの日本の初戦・ベルギー戦が行われ、日本にとって初めての勝ち点を飾った記念のスタジアムとなりました。



埼玉スタジアム2002



ACL 優勝トロフィー（浦和レッズ）

平成16年、埼玉県では2回目の国体となる彩の国まごころ国体が開催され、成年女子は、見事初優勝を果たしています。同年、まごころ国体の主力選手を送ったさいたまレイナスは、平成12年（2000）に日本女子リーグに参戦して、いきなり優勝しました。

エピローグ 埼玉サッカーの未来

埼玉県には、Jリーグ2チームがあり、プレイヤーだけでなく観戦し応援するサポーターまで、世代を問わず幅広い年齢層でサッカーへの熱い思いが広がり、サッカーミュージアム構想もあります。

埼玉でサッカーが始まって100年。この間の発展は目覚しく、埼玉サッカーの生みの親・細木志朗も、さぞや驚き、また喜んでいることでしょう。

（特別展示担当 杉山正司）

今回は、熊谷市^{めぬま}妻沼^{かんぎいん}の歎喜院に伝来した1枚の織物をめぐるお話です。

その織物の名は「紵糸斗帳」。紵糸とは縹子組織の織物を意味し、斗帳とは仏像を安置している厨子などの前面に垂れ下げる幕のことです。

この織物は、今から450年ほど前、中国・明の時代に作られ、室町時代に日本へ船載されたものと考えられています。

名物裂という言葉をご存知でしょうか。元・明・清代の織物で、鎌倉時代から室町時代、そして江戸時代初期にかけて日本へ輸入され、特に名品とされたものを指します。多くは金襴や緞子といった織物で、当時こうした渡来の染織品はたいへん珍重されました。現在、茶道具の袋などとして遺されています。紵糸斗帳もまた、こうした織物たちと同じように日本へもたらされたものです。当時、上質な絹の布や絹糸は多くが中国からの輸入でした。

紵糸斗帳の伝来については、歎喜院^{かんぎいん}聖天堂の造営時、天文21年（1552）に、造営主である忍城主・成田長泰^{なりたながやす}が寄進したものと伝えられています。

その後、江戸時代になってから、時の将軍徳川吉宗が紵糸斗帳を上覧しています。吉宗は、諸家や神社仏閣に伝わる宝物類の調査を行いました。その一環としての上覧だったのでしょう。紵糸斗帳は享保16年（1731）に江戸城へもたらされ、翌年2月に歎喜院へ返付されています。

紵糸斗帳が貴重であるのは、古い織物というだ



県指定文化財 紵糸斗帳（歎喜院所蔵）部分
縦 147.0 cm 横 170.0 cm

けではなく、その保存状態が大変良いことです。濃い藍色の縹子地に白褐色の糸（当初は赤糸であったと伝えられますが、現在では退色のためか赤色の痕跡は残っていません）で鴛鴦と雲の連続模様を織り出した緞子です。現在の状態は、一反の織物を中央で裁断し、それを横に並べて耳を縫い合わせ、正方形に近い形となっていますが、織り出しと終わり、および両端の耳が遺っています。つまり、一反分の量がそのまま遺されていると考えられるのです。多くの名物裂が小さく裁断された形でしか伝わっていないことを思えば、その貴重さを実感していただけるのではないのでしょうか。

また、この布の両端には、その製作の経緯を示す墨書が残っています。それによれば、福健の機戸^{ふくけん}章宗太なる人物が織り、税としておさめたものと考えられます。雲繫ぎの文様は明代の衣服によく見られる文様で、もとは服地として生産されたのでしょう。現在でもその深い藍色は褪せることなく、白褐色の緯糸で織り出された文様は光沢を失っていません。材料技術とも、おそらく当時世界最高水準のものだったことなのでしょう。そして、埼玉にこれほど古く状態の良い染織品が伝世していることは他に例がありません。

紵糸斗帳は、今秋、国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）で開催される「[染]と[織]の肖像—日本と韓国・守り伝えられた染織品—」展へ出品されます（10月15日～11月3日展示）。ぜひご覧になってはいかがでしょうか。

（資料調査担当 池田伸子）



約1cm四方の組織

かな さな かぐら 民俗芸能調査「金鑽神楽」について

当館では、無形民俗文化財に関する調査を継続的に行っています。無形民俗文化財は、職人の伝える民俗工芸や日々の生活の中で伝承されてきた技術、神楽・獅子舞などの民俗芸能、あるいは祭り・神事などに代表される無形の民俗伝承です。

昨年度と今年度は金鑽神楽を取り上げ、映像記録とともに、各組で所有する文書類や神楽衣裳・用具の調査を行っています。

金鑽神楽は、児玉郡神川町にある二宮・金鑽神社を中心として伝承されてきた神楽です。宝暦年間（1751～64年）に江戸の里神楽の形式を受け継ぐ大宮住吉神社（坂戸市）の神楽を伝授されたものといわれています。金鑽神社では明治11年に神楽講社をつくり、明治15年には遊芸人取締規則の発令にともなって、その神楽を奉納するための集団として児玉郡内に神楽組を組織しました。当初は8組でしたが、しだいに増えていき、最終的に明治26年には児玉郡だけでなく、大里郡まで含めた地域に13組の神楽組が組織されました。金鑽組（児玉郡神川町）・岡本組（児玉郡美里町）・五明組（児玉郡上里町）・忍保組（上里町）・杉田組（本庄市）・宮崎組（本庄市）・本庄組（本庄市）・根岸組（本庄市）・太駄組（本庄市）・森田組（深谷市）・渡辺組（深谷市）・永田組（深谷市）・折原組（大里郡寄居町）の13組でした。組の名称は、中心となる神社神主の名や地名からつけられています。

これだけ多くの組が、ひとつの神社のもとで統一された同じ演目の神楽を伝承するという形態は、

きわめて珍しいものです。

この13組では統一された25座の演目を伝えています。「岩戸開」「氷の川」「向火」「禊」「相生」「御誓盟」「御降臨」「鍛冶」「御殿舎」「種蒔」「養蚕」「天長田」「御穂崎」「諏訪海」「伊賦夜坂」「御幸易」「満乾珠（珠取）」「久寿師」「無戸室」「五行」「竈」「御井」「男山」「湯探行事」「三韓征伐」があります。

実際にはこの25座すべてを奉納することはほとんどなく、このうちのいくつかを選んで舞うこととなります。まず舞台を祓い浄める「禊」を舞い、次いで「相生」、さらに「岩戸開」の三座を演じるのが一般的で、最後は「種蒔」、あるいは「向火」「男山」など悪魔祓的な要素の強い座を演じ、その間に数曲を演じ、おおむね六座ほど奉納するのが標準的です。よく演じられる座は、「岩戸開」「氷の川」「御穂崎」「天長田」「種蒔」「御幸易」「満乾珠」「鍛冶」などです。多くの座で、アシライと呼ぶ道化が活躍するのも特徴となっています。神楽の最後には三角餅が撒かれ、この餅を食べると風邪を引かないと信じられ、子供たちも先を争って拾っています。

しかし、残念なことに25座すべてを伝承している組はすでになく、また後継者が途絶えて舞えなくなってしまった組もいくつかあります。

時代の流れのなか、やむを得ないこともありますが、復活の兆しもあり、応援をしていきたいと思えます。

（資料調査担当 三田村佳子）



満乾珠（本庄組）



岩戸開（永田組）

平成19年度 新収集資料の紹介

博物館の大きな仕事のひとつに、絵画や彫刻、工芸品、古文書、考古遺物、民具などの資料を収集し、それらの資料を次の世代に継承していくことがあります。当館においてもこれまで郷土埼玉の歴史や文化に関する資料の収集を積極的に進めてきました。そうした中で「木曾街道六十九次」や、「鯨絵」、「引札」などの当館固有のコレクションが形成され、「国宝 太刀・短刀」や「太平記絵巻」に代表されるように収集資料の充実が図られてきました。ここで、平成19年度新たに収集された主な資料を紹介します。

あしがらどう 足軽胴 15領

足軽胴は、戦国時代から足軽と呼ばれ、最前線で合戦を行う雑兵の着用した武具で、大名がそろえたものを戦になると下士（徒士）に貸し与えたことから「お貸し具足」とも呼ばれています。そのため残存した足軽胴は多いとはいえませんが、当館では昭和58年にリニューアルして以降、足軽コーナーを設けて常設展示しており、全国的にみても特徴ある展示のひとつとなっています。



くろうるしめりおけがわどう
黒漆塗桶側胴
しゅうるしめりみつおおぎもん
＜朱漆塗三扇紋＞

写真の足軽胴の内側には、「中わ百十四寛政五癸巳之奉命修補之津田清六清重」の朱書きがあり、全体に漆箔の剥離や草摺の威糸の断裂がみられるものの、修理の手がほとんど入らず、当初の姿をよく伝えています。

とうしつどき 陶質土器など 51点

大正時代後半から昭和のはじめにかけて、朝鮮半島で収集された陶質土器、古瓦、鏡、染付などのまとまった資料です。

陶質土器は、脚付短頸壺や、長頸壺、高坏、三足坏、蓋などの種類があります。半島南部の



陶質土器 脚付短頸壺

出土品で、三国時代のもので考えられます。古瓦は、楽浪郡時代の巻雲文軒丸瓦や、三国時代の蓮華文軒丸瓦もあります。多くは統一新羅時代のもので、蓮華文軒丸瓦、禽獸文軒丸瓦、唐草文軒平瓦、鬼瓦、文字を

印刷した平瓦があります。鏡は、楽浪郡時代の方格規矩四神鏡で、彫りのシャープな優品です。染付は、窓絵山水文壺や、辰砂文瓶などがありますが、李朝時代でも比較的新しいものと思われます。

さいたまけんかんないりていいちらん 埼玉県管内里程一覧 1点

県内の宿、町、村とそれらを結ぶ国道、県道、里道が描かれ、その間の距離が記入された地図です。

埼玉県では明治13年に県の編による『埼玉県管内全図』が発行されましたが、興味深いのは本資料が、その管内図をもとにつくられていることです。

発行は明治13年、印刷は銅版多色刷りで、縮尺は2万分の1、スケールは間と里で表示しています。付属する包紙には『朝生文就著 埼玉県管内里程一覧埼玉県蔵版』と標記されています。

(資料調査担当 鈴木秀雄)



埼玉県管内里程一覧

トイレが明るくきれいになりました！

～大規模改修及び耐震補強工事（I期）が竣工～

平成19年度、当館建物完成後36年が経過し、設備の老朽化が著しく目立つようになったため、大規模改修及び耐震補強工事を実施しました。

まずこの工事では、館内すべてのトイレをリニューアルしました。自動水栓付き洗面器を設置し、洋式トイレはすべてウォシュレット付きとしました。個室ブース内も少し広くなり、照明、壁も新しくなり、明るい雰囲気になりました。（写真1）



写真1 リニューアル後の女性用トイレ

車椅子対応の多目的トイレである「みんなのトイレ」も新たに設置しました。このトイレには、電動ドア、ウォシュレット付きタッチスイッチ洗浄洋式便器、自動水栓付き洗面器、オストメイト対応流し、オムツ替え用ベビーシート、ベビーチェア、着替え用ボードが設けられています。

ここは「みんなのトイレ」の名のとおり、どなたでもご利用できます。（写真2）



写真2 みんなのトイレ

エントランスホールのメイン照明もリニューアルしました。これまで上向き間接照明だけであったものを、間接照明と直接照明をミックスしたものに替え、ほどよい明るさにしました。（写真3）



写真3 エントランスホールの照明設備

さらに南門側入口の屋外スロープを傾斜の緩やかなものに改修し、自動ドアも設置しました。車椅子やベビーカーご使用のお客様にとりましては入りやすくなったと思います。（写真4）



写真4 南門側スロープ

耐震補強工事も併せて行いました。「耐震性がやや劣る建築物」から「耐震性が確保されている建築物」になり、お客様に安心してご利用いただける博物館となりました。

これからも館内環境の向上のため大規模改修工事を計画しておりますので、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

（施設担当 島村和男）

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報（7月～9月）



埼玉県の
マスコット
コバトン

■企画展「埼玉サッカー100年」は7月19日（土）から8月31日（日）までです。

■7月1日（火）から8月31日（日）の間は、午後5時まで開館時間を延長します。

- 7月**
- 19日(土) 学芸員の仕事紹介
博物館裏方探検隊
 - 26日(土) 博物館裏方探検隊
 - 27日(日) 企画展記念講演会
 - 30日(水) 張り子人形作り（8月1日も受講）
- 8月**
- 1日(金) 張り子人形作り
 - 2日(土) 博物館裏方探検隊
 - 6日(水) ミニ団扇作り
 - 7日(木) ミニ団扇作り
 - 8日(金) 藍の型染めハンカチ作り
 - 9日(土) 博物館裏方探検隊
 - 10日(日) ミュージアムトーク
 - 16日(土) 博物館裏方探検隊
学芸員の仕事紹介
 - 21日(木) 木目込み人形作り
 - 22日(金) ベーゴマ作り
ノスタルジックイベント

- 8月**
- 23日(土) 博物館裏方探検隊
ベーゴマ作り
ノスタルジックイベント
 - 24日(日) サッカー関連イベント
ノスタルジックイベント
 - 30日(土) 博物館裏方探検隊
- 9月**
- 6日(土) 博物館裏方探検隊
 - 12日(金) 藍の型染めハンカチ作り
 - 13日(土) 博物館裏方探検隊
 - 14日(日) ミュージアムトーク
 - 20日(土) 学芸員の仕事紹介
博物館裏方探検隊
 - 21日(日) 歴史民俗講座
 - 27日(土) 博物館裏方探検隊

❖ は事前予約が必要です（小・中学生対象）
 は事前予約が必要です

<予告> 特別展「名もなき至宝 -うけつがれし重要有形民俗文化財-

開催期間：2008年10月7日(火)～11月24日(月)

重要有形民俗文化財は、衣食住、年中行事など、庶民の生活文化を理解する上で極めて貴重な文化遺産といえます。本特別展では、東日本を中心に特色ある15件のコレクションを一堂に会し、スポットライトをあてるとともに、それらの価値にいち早く着目した先覚者の事績もあわせて紹介します。



埼玉県立
歴史と民俗の博物館（編集発行）

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
 TEL. 048-641-0890（管理）
 048-645-8171（学芸）
 FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
 Vol.3-1（通巻）第7号
 2008年7月17日発行

